

**令和4年度  
ヤングケアラー支援に向けた実態調査  
(介護支援専門員、相談支援専門員等) の  
結果について**

福祉部地域福祉推進室地域福祉課

本調査結果は、主な調査項目について令和5年3月7日時点でとりまとめたものであり、報告書については令和5年6月の公表を予定しています。

# 1. 実態調査の概要

【目的】 大阪府におけるヤングケアラー支援策の検討にあたり、ヤングケアラーと接する可能性のある福祉専門職の認識や事例等を調査・把握する。

【調査者】 大阪府（福祉部地域福祉推進室地域福祉課）及び大阪歯科大学医療保健学部 濱島 淑恵教授（代表）、京都光華女子大学健康科学部 南 多恵子准教授、大阪歯科大学医療保健学部 尾形 祐己助教及び同 神 光一郎教授（以下「研究チーム」という。）による合同で実施

【調査時期】 令和4年11月9日～12月9日（1月間） ※令和4年11月1日現在の状況について回答

【回答方法】 インターネットによる回答フォームから回答

【対象者数及び有効回答率】

領域	調査票	対象者 大阪府内に所在する以下の事業所の専門職	対象者数	有効回答	有効回答率
高齢領域	①	指定居宅介護支援事業所、地域包括支援センターの所長・管理者	3,681	1,548	42.1%
	②	指定居宅介護支援事業所に勤務する介護支援専門員（常勤・専従）	7,294	1,031	14.1%
	③	地域包括支援センターに勤務する常勤・専従の保健師、社会福祉士、介護支援専門員（いずれも準ずるもの含む。介護支援専門員は、介護予防ケアマネジメント・介護予防支援に従事している方）	1,694	225	13.3%
障がい領域	④	指定特定相談支援・障がい児相談支援事業所、基幹相談支援センターの所長・管理者	1,299	421	32.4%
	⑤	指定特定相談支援・障がい児相談支援事業所、基幹相談支援センターに勤務する相談支援専門員（常勤・専従）	1,038	289	27.8%

- 以下、所長・管理者とは調査票①及び④の対象者、スタッフとは調査票②、③及び⑤の対象者である。
- 本実態調査の「報告書」については、研究チームの協力をいただきながら精査・分析を進め、令和5年6月の公表を予定している。

## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### （1）概要

#### ● 所長・管理者調査の結果

- ◆ 高齢領域（居宅介護支援事業所、地域包括支援センター）、障がい領域（特定相談支援・障がい児相談支援事業所、基幹相談支援センター）ともに、ヤングケアラーという言葉について、約9割が「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答し、認知度が高まっていると考えられる。
- ◆ 一方、ヤングケアラーのケースは「いない」と回答した者が高齢領域では約8割、障がい領域では5割以上であった。
- ◆ ヤングケアラーに関することが議題に挙がるのが「よくある」と回答した者は、高齢領域で約1%、障がい領域で約6%であり、ヤングケアラーについて日常的に会議で話し合われる事業所は少ないことがわかった。

#### ● スタッフ調査の結果

##### <ヤングケアラーという言葉の認知度>

- ◆ ヤングケアラーという言葉は「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答した者が、介護支援専門員、地域包括支援センター職員、相談支援専門員ともに95%を超えており、認知度が高まっていると考えられる。

##### <ヤングケアラーの存在割合>

- ◆ 介護支援専門員の認識によると0.2%、地域包括支援センター職員の認識によると0.3%、相談支援専門員の認識によると1.2%であった。

##### <ヤングケアラーの発見・支援で助けになっている（なるだろう）と思うこと>

- ◆ 介護支援専門員、地域包括支援センター職員、相談支援専門員ともにヤングケアラーと会う機会、接点の少なさが最も多く挙げられた。
- ◆ その他、ヤングケアラーを支援する社会資源がわからない、窓口がわからない、ヤングケアラーの支援方法がわからない、ヤングケアラーか否かの判断の難しさが上位に挙げられた。

#### ● 所長・管理者及びスタッフ調査の結果

##### <ヤングケアラーの支援で行政に期待すること>

- ◆ ヤングケアラーの相談窓口、支援の拠点の創設が最も多く、約8割を占めた。次いで支援拠点の紹介が約6割、研修会の開催、ヤングケアラー支援事業の法制化がともに約4割であった。ガイドライン、アセスメントシートの提示も3割以上みられた。

#### ● 過去5年以内に関わったヤングケアラーにかかるケースの状況

※ヤングケアラーの年齢は29歳以下として回答

- ◆ サービス利用者からみたヤングケアラーの続柄は、高齢領域では、孫が最も多く半数以上を占め、次いで子であった。
- ◆ 障がい領域では、子が最も多く6割以上を占め、次いできょうだい（兄・姉・弟・妹）であった。
- ◆ 高齢領域では約半数、障がい領域では7割がヤングケアラーが主介護者であった。

## 2. 実態調査結果の概要 (速報)

### (2) 所長、管理者

#### ▶ ヤングケアラーに関する認知度、サービス等利用計画の中でのヤングケアラーの有無

- ◆ ヤングケアラーという言葉について、約9割が「聞いたことがあります、意味も知っている」と回答し、かなり浸透してきていると考えられる。
- ◆ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけは、7割以上がマスコミ報道であり、研修会は約4割であった。
- ◆ ヤングケアラーのケースは「いない」と回答した者が高齢者領域では約8割、障がい者領域では5割以上であった。
- ◆ 引き続き、ヤングケアラーに関する知識・認識の普及に加え、現在は該当ケースがない場合でも、今後の可能性を含め、ヤングケアラーへの気づきを高めるための啓発等の取組みは必要であると考えられる。

#### 居宅介護支援事業所

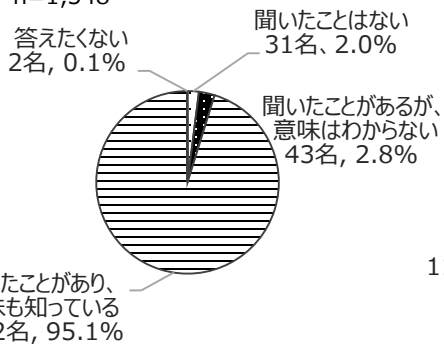
#### 地域包括支援センター

#### 特定相談支援・障がい児相談支援事業所

#### 基幹相談支援センター

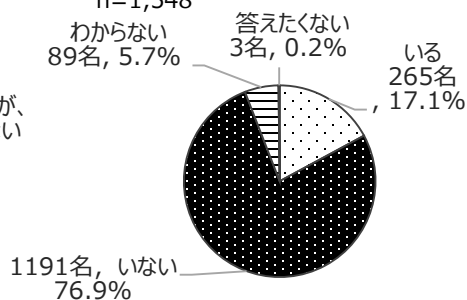
- ▶ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ

n=1,548



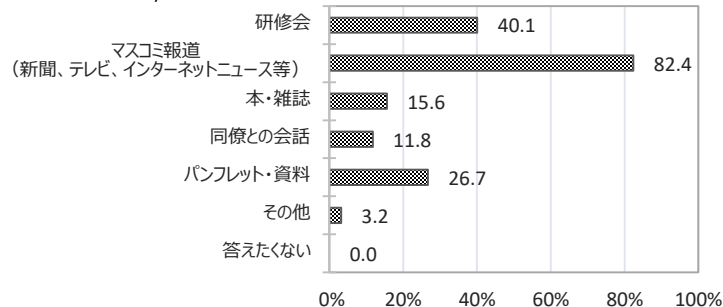
- ▶ 事業所で担当したケースのうち、ヤングケアラーの有無

n=1,548



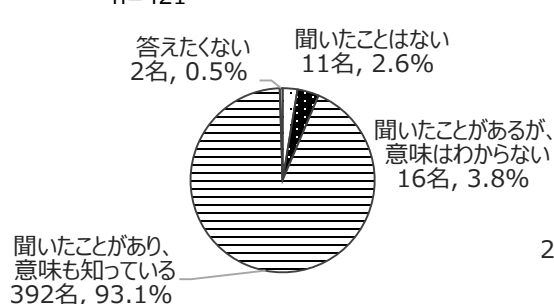
- ▶ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ

n=1,515



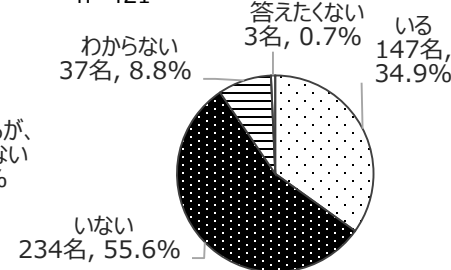
- ▶ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ

n=421



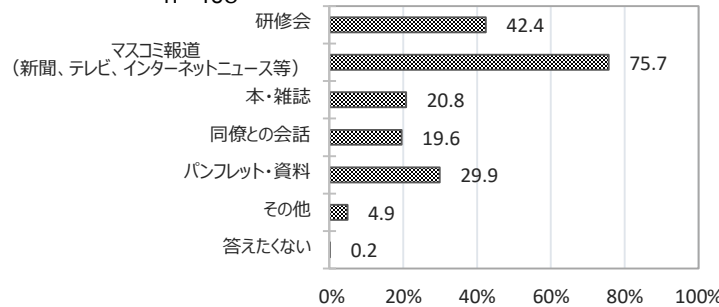
- ▶ 事業所で担当したケースのうち、ヤングケアラーの有無

n=421



- ▶ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ

n=408



## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (2) 所長、管理者

#### ▶ 事業所内の会議でヤングケアラー本人への支援や問題等が議題に上がる頻度

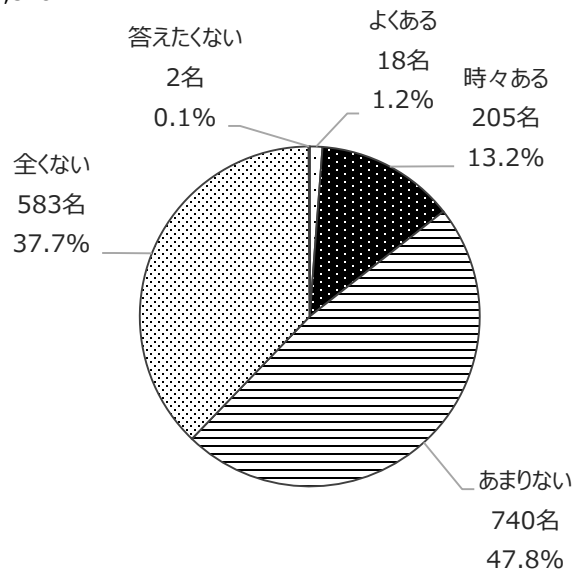
- ◆ 議題に上がることが「よくある」と回答した者が高齢領域で約1%、障がい領域で約6%であった。
- ◆ 調査時点では、ヤングケアラーについて日常的に会議で話し合われる事業所は少ないことがわかった。

#### 居宅介護支援事業所

#### 地域包括支援センター

#### ➤ 議題にあがる頻度

n=1,548

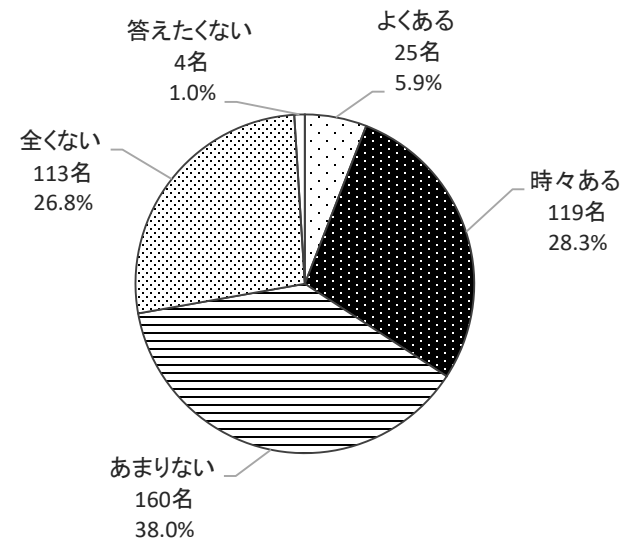


#### 特定相談支援・障がい児 相談支援事業所

#### 基幹相談支援センター

#### ➤ 議題にあがる頻度

n=421



## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (2) 所長、管理者

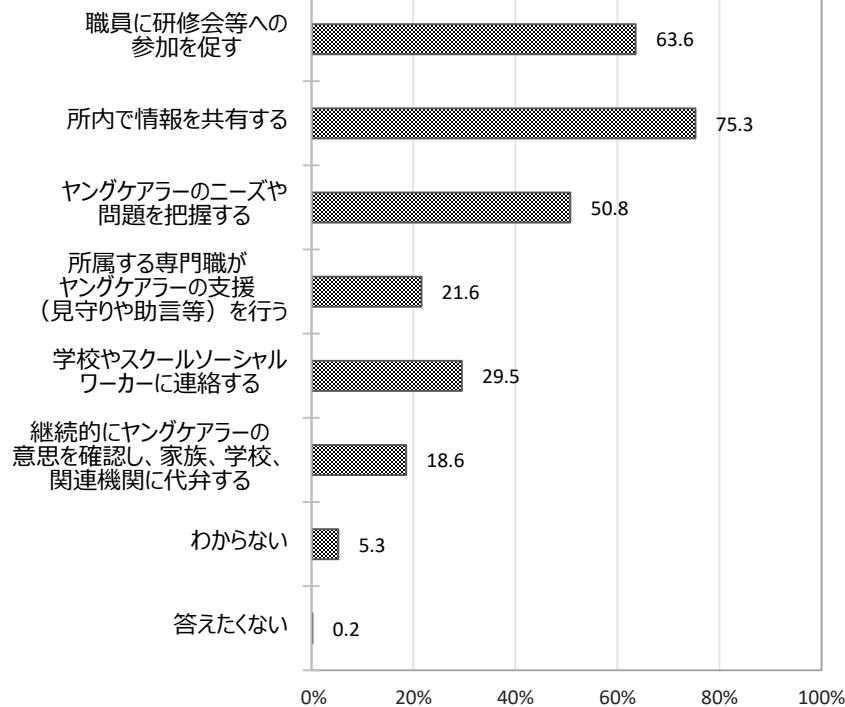
#### ▶ ヤングケアラーとの関わりについて事業所でできそうと思われるもの

- ◆ 事業所内での取組み（所内での情報共有、職員の研修会等参加の促し）が多く挙げられた。
- ◆ ヤングケアラーに対する直接的な支援（所属する専門職がヤングケアラーの支援を行うこと、継続的な意思の確認と学校、家族への代弁）については、高齢領域で約2割、障がい領域で約3割であった。
- ◆ ただし、ヤングケアラーのニーズの把握はどちらも約5割が挙げていた。
- ◆ また、学校、スクールソーシャルワーカーへの連絡は、高齢領域では約3割、障がい領域では約4割であった。

#### 居宅介護支援事業所

#### 地域包括支援センター

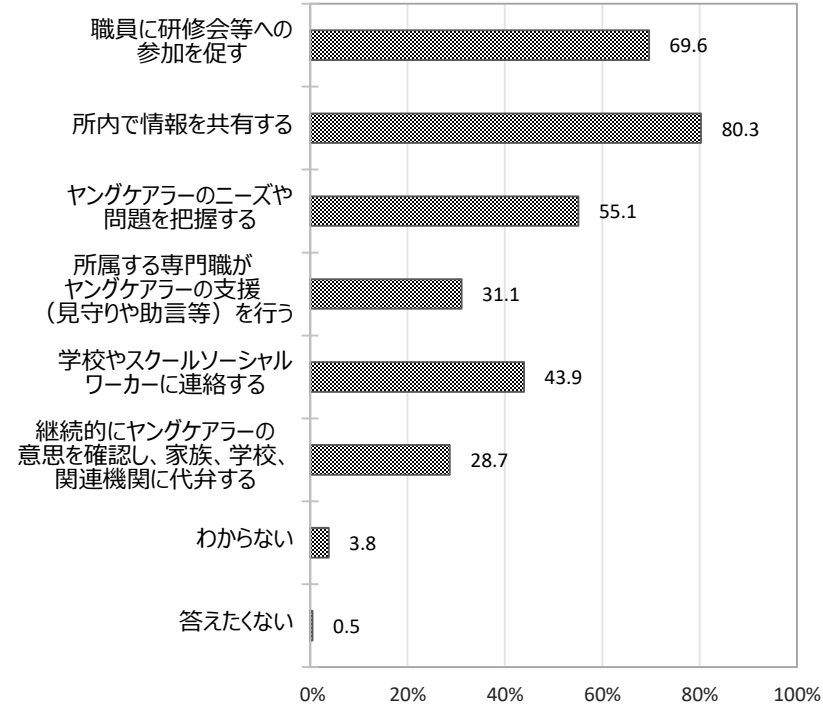
n=1,548



#### 特定相談支援・障がい児相談支援事業所

#### 基幹相談支援センター

n=421



## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (2) 所長、管理者

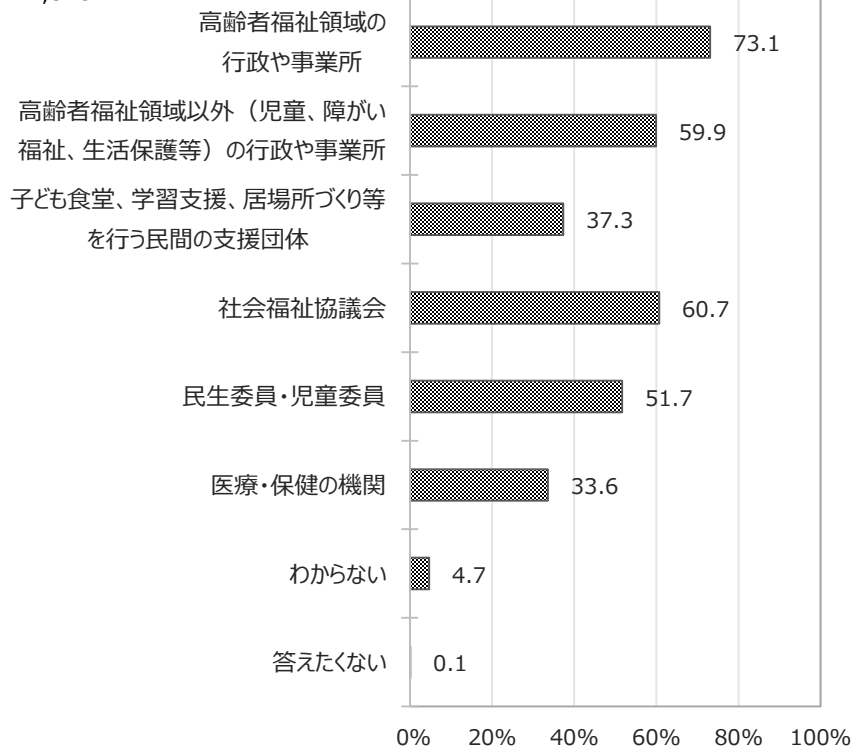
#### ▶ ヤングケアラーとの関わりについて事業所でできそうと思われるもの・連携できそうな機関

- ◆ 高齢領域、障がい領域ともに、同じ領域の行政、事業所を上げるところが最も多く、次いで異なる領域の行政、事業所、社会福祉協議会となっている。
- ◆ これに比べ、子どもの支援などを行う民間支援団体、民生委員・児童委員、医療・保健の機関をあげるところは少なくなっている。
- ◆ 調査時点の連携先としては、同じ領域との、またはフォーマルな資源との連携はできると考えているところが多いが、他の領域や民間との連携には困難さを感じている可能性がある。

#### 居宅介護支援事業所

#### 地域包括支援センター

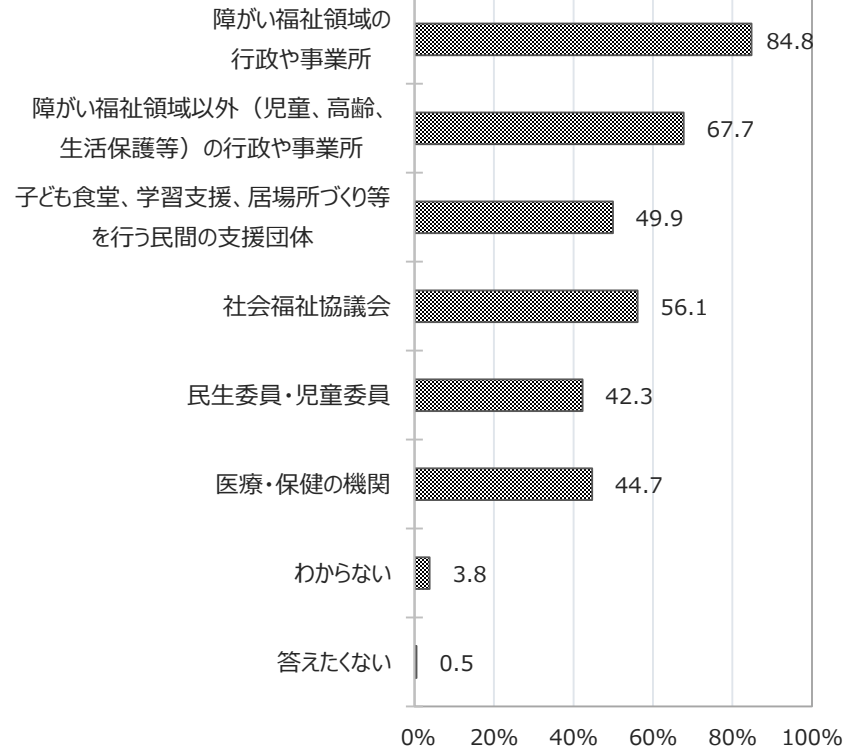
n=1,548



#### 特定相談支援・障がい児相談支援事業所

#### 基幹相談支援センター

n=421





## 2. 実態調査結果の概要（速報）

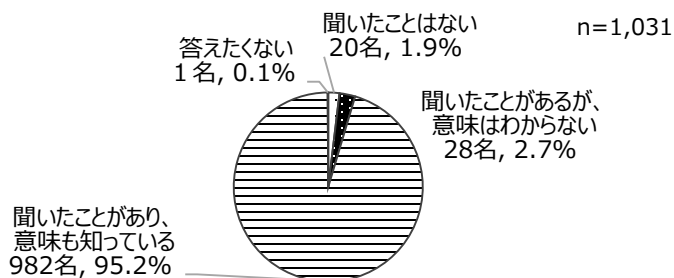
### (3) スタッフ

#### ▶ ヤングケアラーに関する認知度、ケアプランの中でのヤングケアラーの有無、支援が必要だと思われるケース

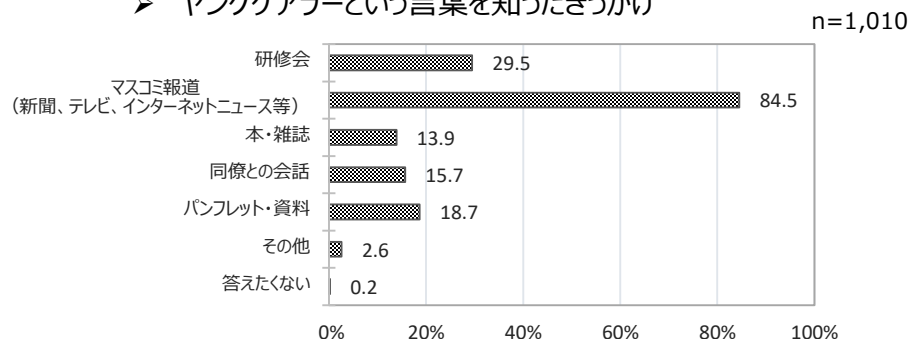
##### 居宅介護支援事業所

- ◆ ヤングケアラーという言葉について、95%が「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答し、かなり浸透してきていると考えられる。
- ◆ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけは、8割以上がマスコミ報道であり、「研修会」や「パンフレット・資料」が続いた。

##### ➤ ヤングケアラーという言葉を知ったことがありますか



##### ➤ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ



- ◆ 今回の調査では、回答者が担当しているケース数が計63,025件、そのうちヤングケアラーのケースは125件であり、ヤングケアラーの存在割合は0.2%となった。
- ◆ ヤングケアラーとして回答のあった125件のうち35件は見守りや支援が必要なケースと認識されていた(28.0%)。

##### ➤ 主担当として作成しているケアプラン数 計63,025件

##### ➤ 主担当として作成しているケアプランの中で、ヤングケアラーの有無

	人数	%
ある	78	7.6
ない	925	89.7
わからない	23	2.2
答えたくない	5	0.5
回答者数	1,031	100

##### ➤ 主担当として作成しているケアプランの中で、ヤングケアラーがいるケース数 計125件

	人数	%
1件	65	83.3
2件	7	9.0
3件	1	1.3
4件	2	2.6
5件以上	3	3.8
無回答	0	0.0
回答者数	78	100

##### ➤ ヤングケアラーに対して見守りや支援が必要だと思われるケース数がある 35件

\* 見守りや支援が必要だと思われるケースが「ある」と回答した人の中には、2件以上のケースを回答した人が含まれるため、「ある」と回答した人数よりもケース数が多くなっている

##### ➤ 見守りや支援が必要だと思われるケース

	人数	%
ある	32	41.0
ない	36	46.2
わからない	9	11.5
答えたくない	1	1.3
回答者数	78	100



## 2. 実態調査結果の概要 (速報)

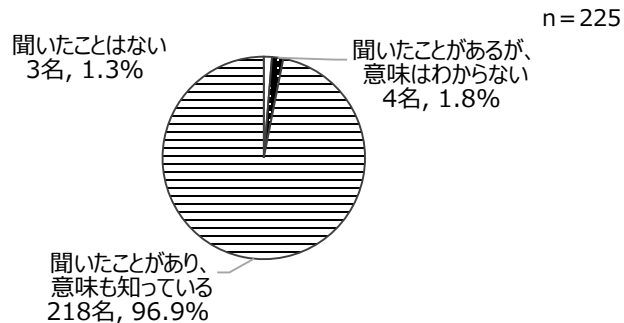
### (3) スタッフ

#### ▶ ヤングケアラーに関する認知度、ケアプランの中でのヤングケアラーの有無、支援が必要だと思われるケース

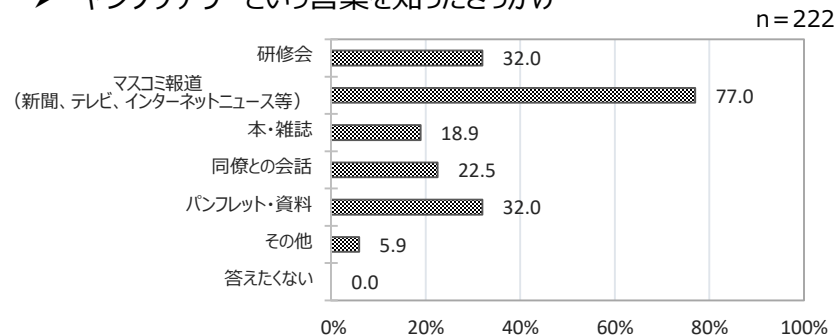
##### 地域包括支援センター

- ◆ ヤングケアラーという言葉について、95%以上が「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答し、かなり浸透してきていると考えられる。
- ◆ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけは、約8割がマスコミ報道であり、「研修会」や「パンフレット・資料」が続いた。

##### ▶ ヤングケアラーという言葉を知ったことがありますか



##### ▶ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ



- ◆ 今回の調査では、回答者が担当しているケース数が計3,337件、そのうちヤングケアラーのケースは9件であり、ヤングケアラーの存在割合は0.3%となった。
- ◆ ヤングケアラーとして回答のあった9件のうち7件は見守りや支援が必要なケースと認識されていた (77.8%)。

##### ▶ 主担当として作成しているケアプラン数 計3,337件

##### ▶ 主担当として作成しているケアプランの中で、ヤングケアラーの有無

	人数	%
ある	7	3.1
ない	212	94.2
わからない	5	2.2
答えたくない	1	0.4
回答者数	225	100

##### ▶ 主担当として作成しているケアプランの中で、ヤングケアラーがいるケース数 計9件

	人数	%
1件	5	71.4
2件	2	28.6
3件	0	0.0
4件	0	0.0
5件以上	0	0.0
無回答	0	0.0
回答者数	7	100

##### ▶ ヤングケアラーに対して見守りや支援が必要だと思われるケース数 7件

\*見守りや支援が必要だと思われるケースが「ある」と回答した人の中には、2件以上のケースを回答した人が含まれるため、「ある」と回答した人数よりもケース数が多くになっている

##### ▶ 見守りや支援が必要だと思われるケース

	人数	%
ある	5	71.4
ない	2	28.6
わからない	0	0.0
答えたくない	0	0.0
回答者数	7	100

## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (3) スタッフ

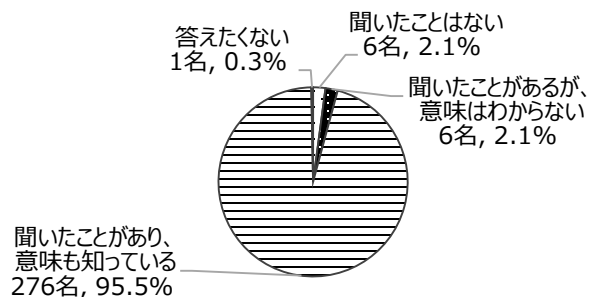
#### ▶ ヤングケアラーに関する認知度、サービス等利用計画の中でのヤングケアラーの有無、支援が必要だと思われるケース

特定相談支援・障がい児  
相談支援事業所

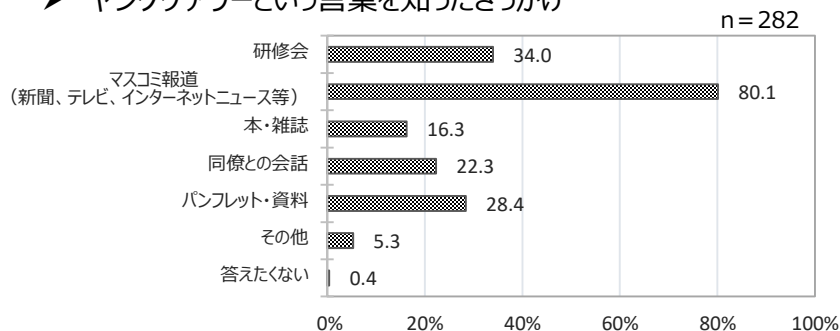
基幹相談支援センター

- ◆ ヤングケアラーという言葉について、約95%が「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答し、かなり浸透してきていると考えられる。
- ◆ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけは、8割以上がマスコミ報道であり、「研修会」や「パンフレット・資料」が続いた。

#### ➤ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ



#### ➤ ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ



- ◆ 今回の調査では、回答者が担当しているケース数が計10,565件、そのうちヤングケアラーのケースは131件であり、ヤングケアラーの存在割合は1.2%となっている。
- ◆ ヤングケアラーとして回答のあった131件のうち90件は見守りや支援が必要なケースとの認識されていた(68.7%)。

#### ➤ 主担当として作成しているケアプラン数 計10,565件

#### ➤ 主担当として作成しているケアプランの中で、 ヤングケアラーの有無

	人数	%
ある	68	23.5
ない	199	68.9
わからない	19	6.6
答えたくない	3	1.0
回答者数	289	100

#### ➤ 主担当として作成しているケアプランの中 で、ヤングケアラーがいるケース数 計131件

	人数	%
1件	35	51.5
2件	18	26.5
3件	8	11.8
4件	1	1.5
5件以上	6	8.8
無回答	0	0.0
回答者数	68	100

#### ➤ ヤングケアラーに対して見守りや支援が必要だと思 われるケース数 90件

\* 見守りや支援が必要だと思われるケースが「ある」と回答した人の中には、2件以上のケースを回答した人が含まれるため、「ある」と回答した人数よりもケース数が多くなっている

#### ➤ 見守りや支援が必要だと思われるケース

	人数	%
ある	52	76.5
ない	10	14.7
わからない	4	5.9
答えたくない	2	2.9
回答者数	68	100

## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (3) スタッフ

#### ▶ ヤングケアラーの発見・支援で妨げになっている（なるだろう）と思うこと

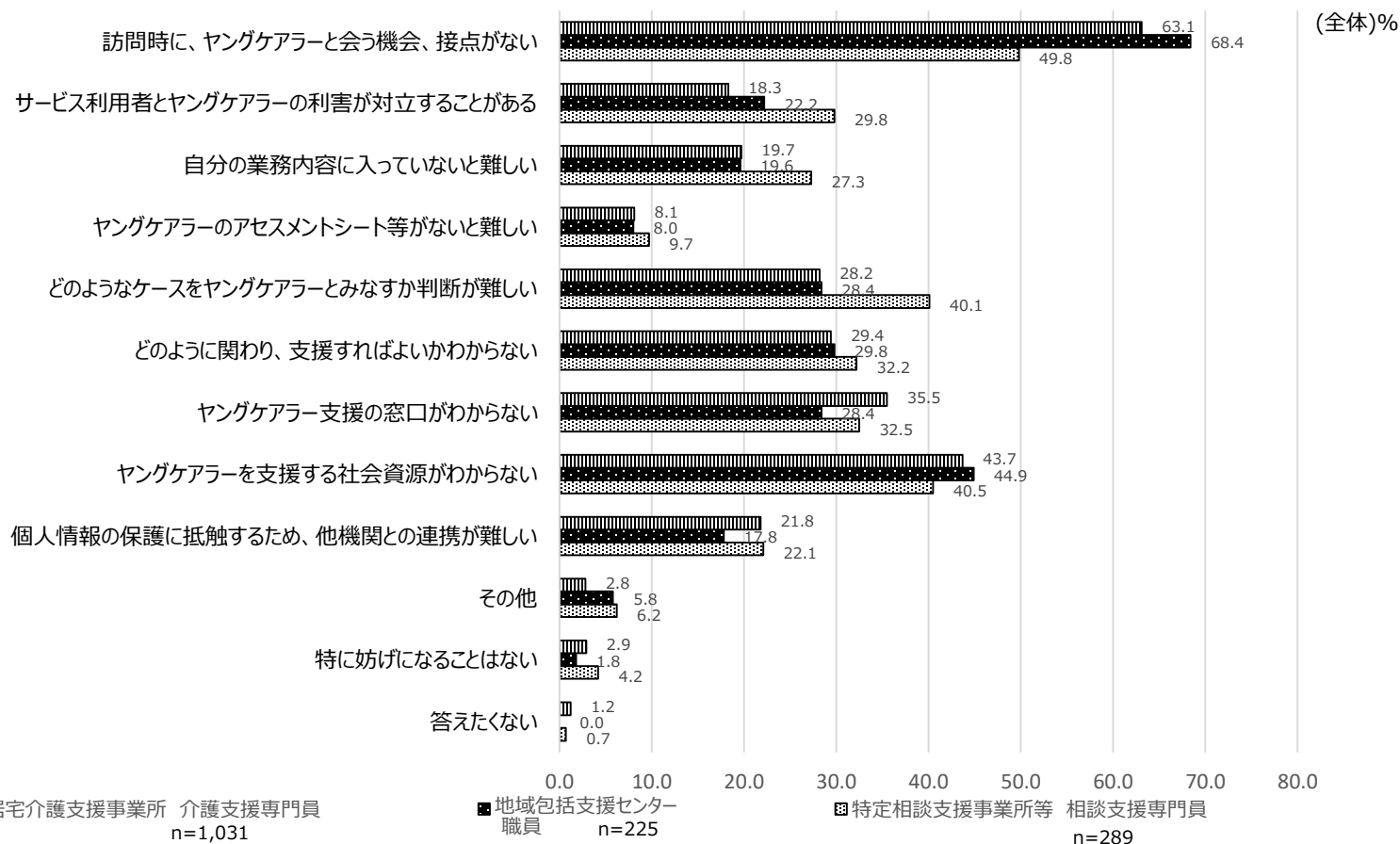
- ◆ 高齢領域、障がい領域ともに、ヤングケアラーとの接点の少なさが最も多く挙げられた。
- ◆ その他、ヤングケアラーを支援する社会資源がわからない、窓口がわからない、ヤングケアラーの支援方法がわからない、ヤングケアラーか否かの判断の難しさが上位に挙げられた。

居宅介護支援事業所

地域包括支援センター

特定相談支援・障がい児  
相談支援事業所

基幹相談支援センター



## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (3) スタッフ

#### ▶ ヤングケアラーの発見・支援でできると思われること

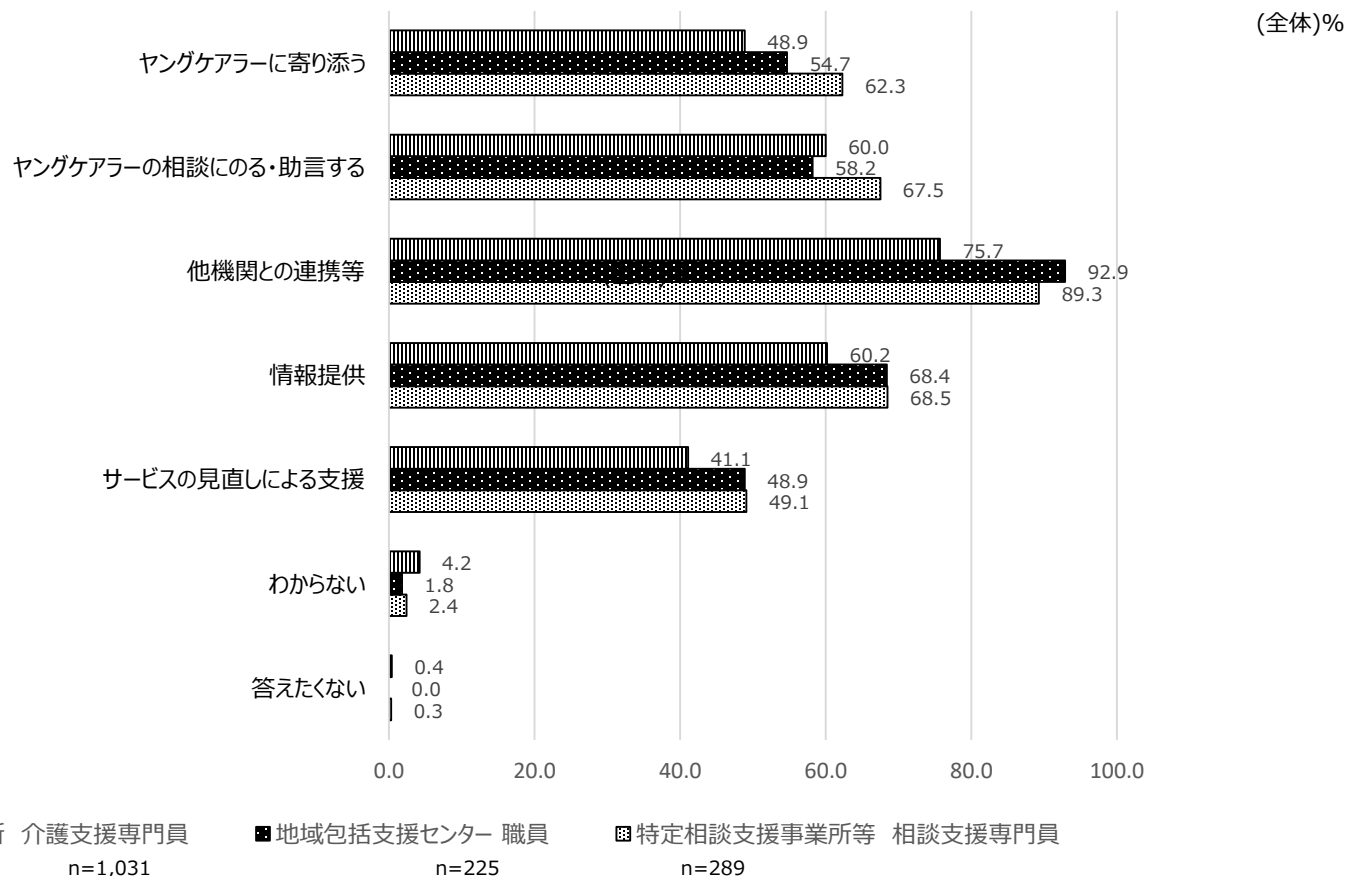
- ◆ 高齢領域、障がい領域ともに、他機関との連携が最も多く挙げられ、相談支援専門員、地域包括支援センター職員では約9割にのぼった。
- ◆ ヤングケアラーに寄り添う、相談にのるといった直接的な支援を挙げた者は、介護支援専門員及び地域包括支援センターの職員では50%前後、相談支援専門員は60%を超えていた。
- ◆ また、地域包括支援センター職員、相談支援専門員が5割程度、介護支援専門員では4割が、サービスの見直しを挙げていた。

居宅介護支援事業所

地域包括支援センター

特定相談支援・障がい児  
相談支援事業所

基幹相談支援センター



## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (4) 所長・管理者、スタッフ

#### ▶ ヤングケアラーの支援で行政に期待すること（全体）

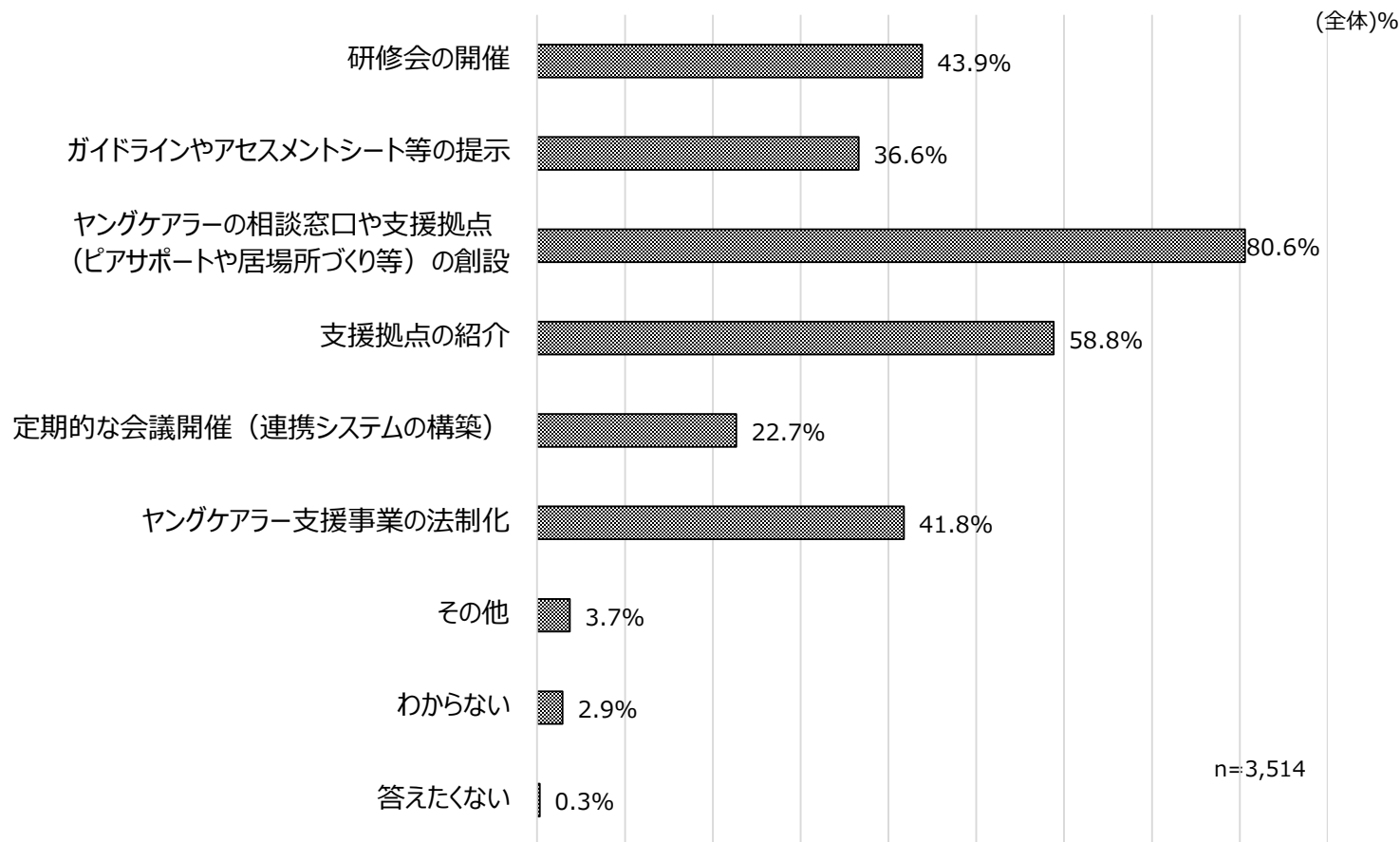
- ◆ ヤングケアラーの相談窓口、支援の拠点の創設が最も多く、約8割を占めた。
- ◆ 次いで支援拠点の紹介が約6割、研修会の開催、ヤングケアラー支援事業の法制化がともに約4割であった。
- ◆ その他、ガイドライン、アセスメントシートの提示も3割以上みられた。
- ◆ ヤングケアラーの相談窓口と直接的な支援体制の整備に向けた期待があると考えられる。

居宅介護支援事業所

地域包括支援センター

特定相談支援・障がい児  
相談支援事業所

基幹相談支援センター



## 2. 実態調査結果の概要（速報）

### (5) 過去5年以内に関わったケースの状況

過去5年以内に関わったヤングケアラーのケースを挙げてもらったところ、以下の事例が挙げられた（本人の年齢は29歳までとした）

#### <高齢領域について>

- ◆ サービス利用者からみたヤングケアラーの続柄は、孫が最も多く半数以上を占め、次いで子であった。
- ◆ 年齢は居宅介護支援事業所では23～29歳が最も多く、次いで16～18歳、19～22歳であり、若者世代のケースが多かった。地域包括支援センターでは、10歳～12歳が最も多く、次いで16～18歳、13～15歳であり、同じ高齢領域でも年齢が低い事例が多く挙げられた。

#### <障がい領域について>

- ◆ サービス利用者からみたヤングケアラーの続柄は、障がい領域では、子が最も多く6割以上を占め、次いできょうだい（兄・姉・弟・妹）であった。年齢は13～15歳、16～18歳が最も多く、次いで10～12歳であり、地域包括支援センターと同様、年齢が低い事例が多かった。

#### <主介護者について>

- ◆ 高齢領域では約半数、障がい領域では7割が主介護者であった。

居宅介護支援事業所

地域包括支援センター

特定相談支援・障がい児  
相談支援事業所

基幹相談支援センター

#### > 事例数

居宅介護支援事業所 介護支援専門員	地域包括支援センター 職員	特定相談支援事業所等 相談支援専門員
58事例	23事例	37事例

#### > ヤングケアラーが主介護者である割合

(全体)%

	居宅介護支援事業所 介護支援専門員 n=58	地域包括支援センター 職員 n=23	特定相談支援事業所等 相談支援専門員 n=37
はい	55.2	52.2	70.3
いいえ	39.7	43.5	29.7
わからない	5.2	4.3	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0
回答者数	100	100	100

#### > サービス利用者からみたヤングケアラーの続柄

(全体)%

	居宅介護支援事業所 介護支援専門員 n=58	地域包括支援センター 職員 n=23	特定相談支援事業所等 相談支援専門員 n=37
配偶者	0.0	4.3	0.0
子（義理を含む）	41.4	34.8	64.9
孫	55.2	56.5	2.7
兄・姉・弟・妹	1.7	0.0	21.6
甥・姪	0.0	0.0	0.0
父	0.0	0.0	0.0
母	1.7	0.0	2.7
その他	0.0	4.3	8.1
無回答	0.0	0.0	0.0
回答者数	100	100	100

#### > ヤングケアラーの年齢

(全体)%

	居宅介護支援事業所 介護支援専門員 n=58	地域包括支援センター 職員 n=23	特定相談支援事業所等 相談支援専門員 n=37
7歳未満	5.2	4.3	0.0
7～9歳（小学校低学年）	0.0	8.7	8.1
10～12歳（小学校高学年）	3.4	26.1	18.9
13～15歳（中学生）	13.8	17.4	24.3
16～18歳（高校生相当）	25.9	21.7	24.3
19～22歳	17.2	13.0	13.5
23～29歳	32.8	8.7	10.8
わからない	1.7	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0
回答者数	100	100	100